

研究テーマ「高校生の介護および介護職に対する意識について」

I. 研究者：日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科 講師 藤沢緑子

II. 研究の目的

秋田県内の高校生を対象とした「介護への関心および介護職への就労意識に関する調査」を実施し、秋田県における今後の介護人材新規確保の可能性を探ること、若者の介護職就労を促進するための課題を明確化することを目的とする。

III. 研究の概要

1. 研究動機と研究背景

現在、介護現場においては、慢性的な介護従事者不足が深刻化している。特に全国平均を上回るペースで少子・高齢化が進行している秋田県においては、将来にわたる介護人材の確保は大きな課題であり、この問題への対応が急がれるところである。

介護人材不足の背景には、現在の若者に見られる「介護離れ」の意識が深く関連していると考えられる。そこで、本研究では若者の介護に対する意識、特に将来の進路選択において重要な時期となる高校生の介護および介護職に対する意識に着目したいと考えた。

これまで、高校生の進路に対する意識については多くの先行研究があるが、介護や介護職に対する意識についての調査は少なく、特に秋田県内の高校生に限定した研究は報告されていない。そこで、本研究では秋田県内の高校生に対する意識調査を行い、高校生の介護および介護職に対する関心、介護分野への就職・進学意向等をはじめ、それらに影響すると考える様々な要因について明らかにし、今後の秋田県における介護人材新規確保の可能性を探り、若者の介護就労を促進する上での課題を探ることをねらいとする。

2. 研究方法

- 1) 研究デザイン：先行研究を基に独自に作成した質問紙による量的記述的研究
- 2) 調査方法：郵送法による無記名自記式質問紙調査
- 3) 調査対象：秋田県内の高校に在籍する 2 年生の生徒。各校につき、1 クラスの生徒を調査対象とした。
高校に対し電話にて調査の趣旨を説明して協力を依頼し、同意が得られた 34 校に対し、各校 1 クラス分の調査票(合計 1317 名分)を郵送した。
- 4) 調査時期：平成 24 年 1 月～平成 24 年 2 月

5) 調査内容

①在籍している学科（コース）、②高校卒業後の進路、③福祉系大学等への進学希望の有無、④福祉系進学希望者の進学希望先、⑤介護の仕事への関心の有無、⑥介護の仕事に関心を持ったきっかけ、⑦介護の仕事に関心を持ち始めた時期、⑧介護職への就労意向とその理由、⑨福祉系資格への関心の有無、⑩介護の仕事に対して抱く意識、⑪介護に関する経験（職場体験、インターンシップ、ボランティア）の有無、⑫介護との接触状況（要介護者、介護職が身のまわりにいた経験の有無）、⑬介護の仕事について情報を得た主な手段、⑭職業を決める際に重視すること

3. 倫理的配慮

本研究の倫理審査を本学研究倫理審査委員会に申請して承認を得た後、研究の趣旨や調査票の内容について高校側に説明し、協力への同意が得られた高校の生徒を調査対象とした。生徒への説明文には研究目的、方法、協力の有無により不利益がないこと、結果は統計的に集計・分析し生徒個人のプライバシーを守ること、研究結果は本学研究紀要等で公表すること、研究結果は研究目的以外には使用しないことを明記し、同意が得られた回答を分析対象とすることとした。調査票に調査協力への同意の可否を選択する項目を設け、同意の可否を確認した。また、調査で得られたデータは研究室内の鍵付き保管庫にて施錠して管理し、結果の公表後は速やかにシュレッダー処理にて廃棄することとした。

4. 研究結果

1) 調査票回収率

調査協力への同意が得られた 34 校に対して各校 1 クラスの生徒分の調査票（合計 1317 名分）を郵送し、学校で取りまとめた返送を依頼した結果、32 校から返信があった。調査票回収数は 1155 通、回収率は 87.7%であった。調査への協力で同意が得られた 1155 名の回答を分析対象とした。

2) 調査項目の集計結果

(1) 回答者の属性

回答者は男性 347 名（30.0%）、女性 805 名（69.7%）、無回答 3 名（0.3%）であり、女性が約 7 割を占めていた。

在籍している学科（コース）は普通科が最も多く 877 名（75.9%）、次いで総合科 90 名（7.8%）、農業科 76 名（6.6%）、福祉科 44 名（3.8%）生活科学（家庭）科 33 名（2.9%）、理数科 8 名（0.7%）、工業科 7 名（0.6%）、商業科 6 名（0.5%）、その他 14 名（1.2%）であった。

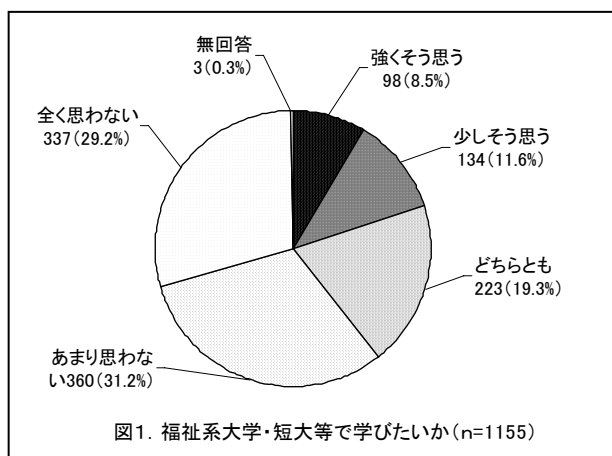
(2) 高校卒業後に希望する進路

県内就職 237 名 (20.5%)、県外就職 113 名 (9.8%)、県内進学 299 名 (25.9%)、県外進学 465 名 (40.3%)、その他 3 名 (0.3%)、無回答 67 名 (5.8%) であった。

4 区分の中では県外進学希望者が最多であり、県外就職希望者とあわせると 578 名 (50.0%) が卒業後に県外に出ることを希望していた。県内に残ることを希望する生徒は 536 名 (46.4%) であった。

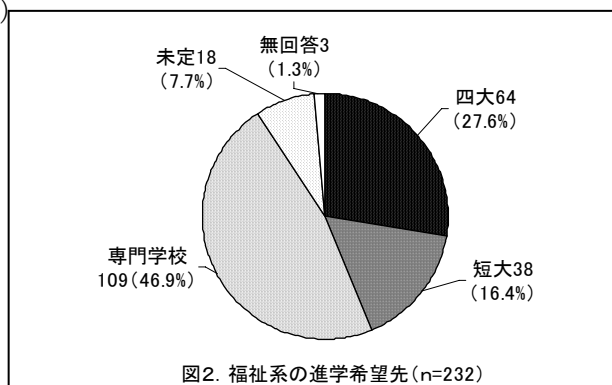
(3) 福祉系大学等への進学希望 (図 1)

『高校卒業後、福祉系の大学・短大・専門学校で学んでみたいと思うか』とする設問に対し、「強くそう思う」98 名 (8.5%)、「少しそう思う」134 名 (11.6%)、「あまりそう思わない」360 名 (31.2%)、「まったくそう思わない」337 名 (29.2%) であった。福祉系大学・短大等への進学を希望する生徒は全体の約 2 割であった。



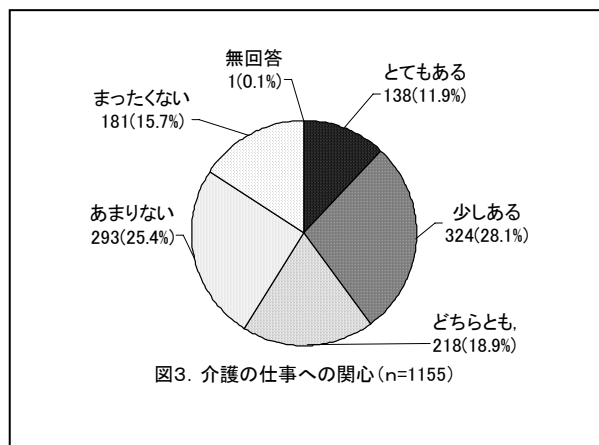
(4) 福祉系進学希望者の進学希望先 (図 2)

福祉系大学・短大等への進学を希望する生徒 (上記 (3) の設問にて「強くそう思う」「少しそう思う」と回答した 232 名) のうち、専門学校を希望する生徒が約半数を占めており、次いで四年制大学希望者 65 名 (27.9%)、短大希望者 38 名 (16.3%)、未定 18 名 (7.7%)、無回答 3 名 (1.3%) であった。



(5) 介護の仕事に対する関心の有無 (図 3)

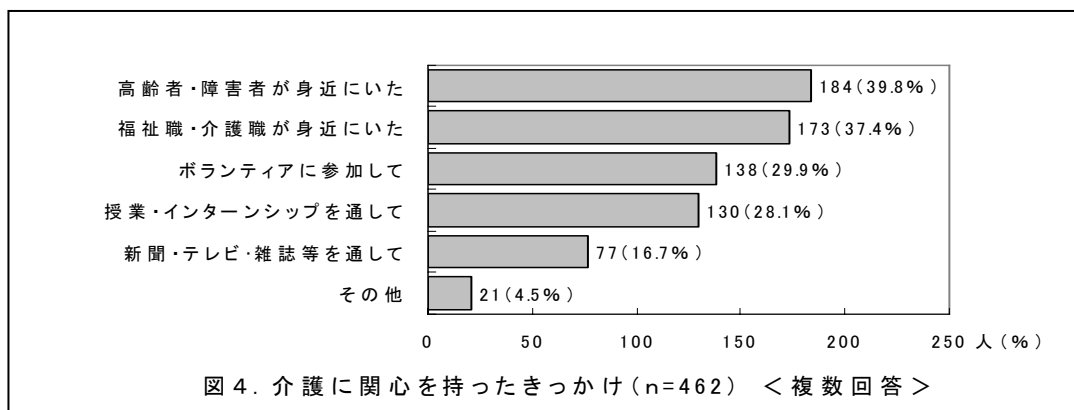
介護の仕事に対する関心が「とてもある」138 名 (11.9%)、「少しある」324 名 (28.1%)、「どちらともいえない」218 名 (18.9%)、「あまりない」293 名 (25.4%)、「まったくない」181 名 (15.7%) であった。



(6) 介護の仕事に関心を持ったきっかけ (図4)

介護の仕事に関心がある(「とてもある」「少しある」と答えた回答者 462 名に、関心を持ったきっかけを尋ねた(複数回答)。

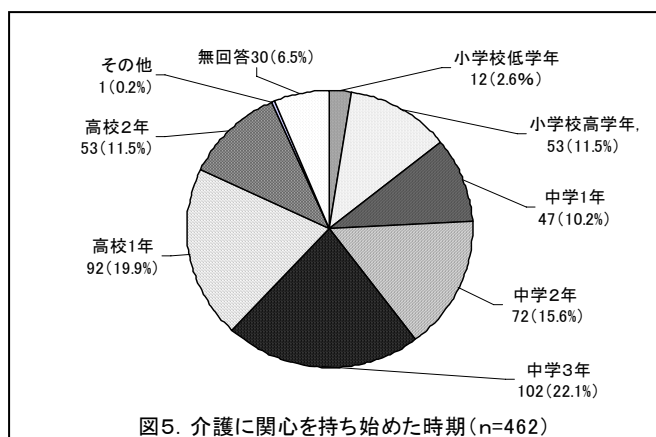
「高齢者や障害者が身近にいたこと」が 184 名 (39.8%) で最も多く、次いで「福祉や介護の仕事をしている家族や知人がいたこと」173 名 (37.4%)、「ボランティア活動に参加したこと」138 名 (29.9%)、「授業やインターンシップで介護の仕事を知ったこと」130 名 (28.1%)、「新聞やテレビ、雑誌で見たり聞いたりしたこと」77 名 (16.7%) の順であった。



(7) 介護の仕事に関心を持ち始めた時期 (図5)

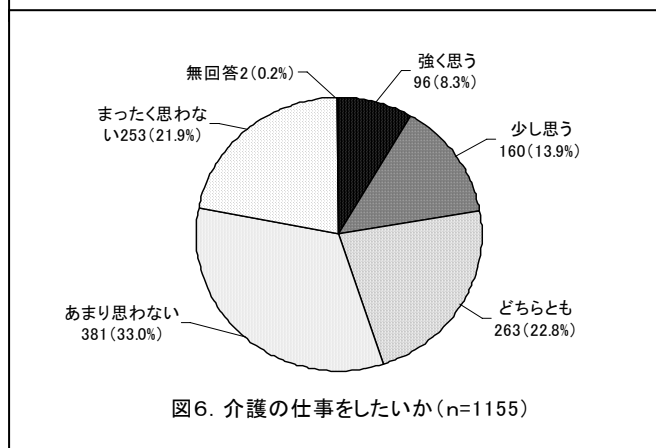
介護の仕事に対する関心が「とてもある」「少しある」と答えた回答者 462 名に、関心を持ち始めた時期を尋ねた。

「中学3年」が最も多く 102 名 (22.1%)、次いで「高校1年」92 名 (19.9%)、「中学2年」72 名 (15.6%) の順となっていた。



(8) 介護職への就労意向(図6)(表1)

『介護の仕事をしたと思うか』とする設問に対し、「強くそう思う」96 名 (8.3%)、「少しそう思う」160 名 (13.9%)、「どちらともいえない」263 名 (22.8%)、「あまりそう思わない」381 名 (33.0%)、「まったくそう思わない」253 名 (21.9%) であった。



先に述べた「(5) 介護の仕事に対する関心の有無」において、関心が「とてもある」「少しある」と答えた回答者 462 名の介護職への就労意向を表 1 に示す。

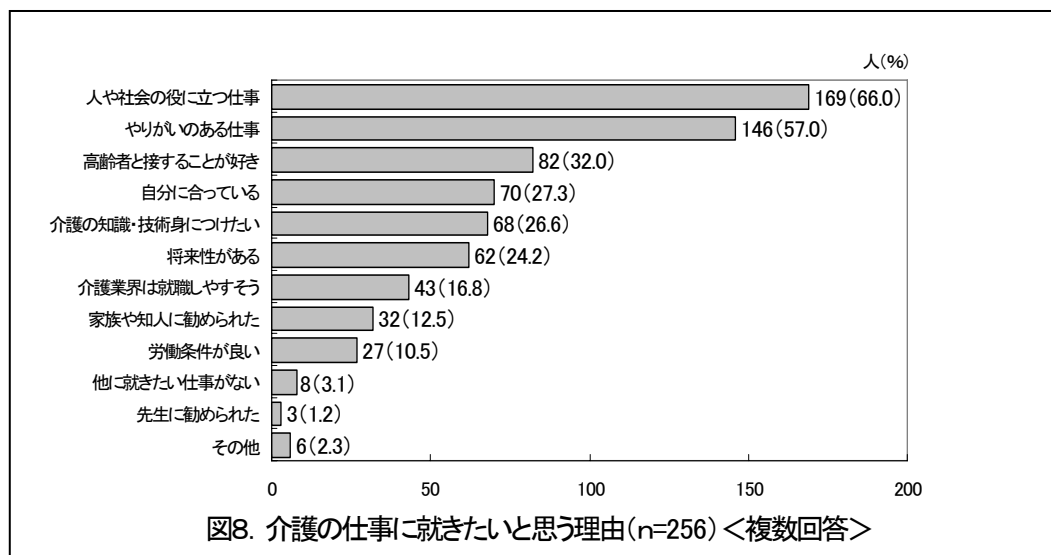
＜表 1＞介護職に関心を持つ生徒の介護職への就労意向

就労意向 関心	強くそう思う	少しそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	計
とても関心がある	87(63.0)	42(30.4)	4(2.9)	4(2.9)	1(0.7)	138(100.0)
少し関心がある	9(2.8)	111(34.3)	127(39.2)	72(22.2)	5(1.5)	324(100.0)
計	96(20.8)	153(33.1)	131(28.3)	76(16.5)	6(1.3)	462(100.0)

介護の仕事に「とても関心がある」との回答者の 9 割以上が介護の仕事に就きたい（「強くそう思う」「少しそう思う」と答えているが、「少し関心がある」との回答者では介護の仕事に就きたいとの回答は 4 割以下となっている。

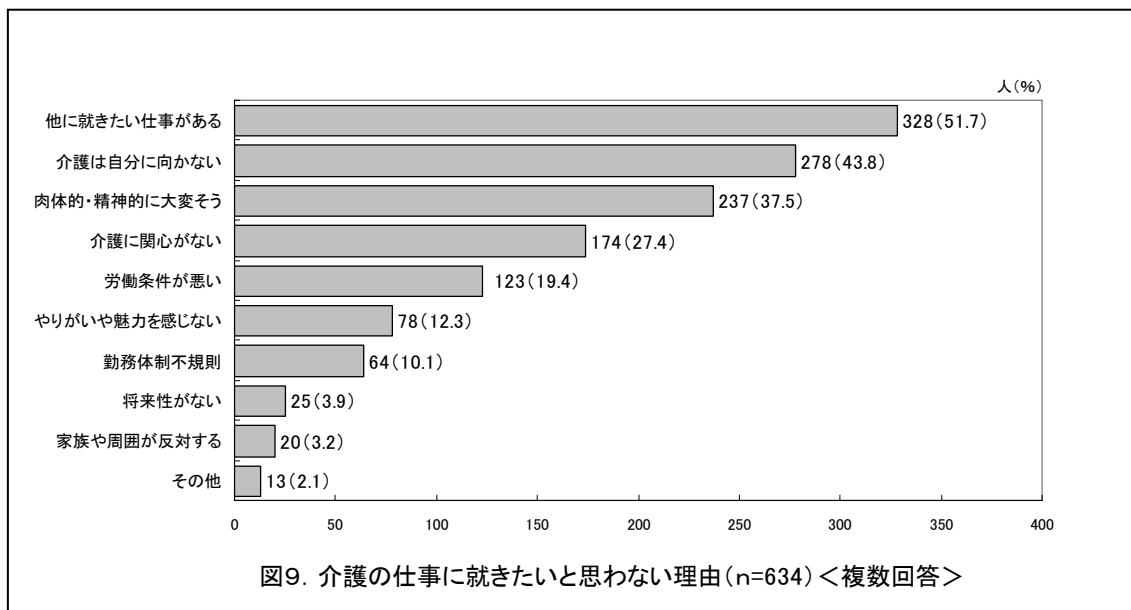
(9) 介護の仕事に就きたいと思う理由 (図 8)

上記 (8) の設問に「強くそう思う」「少しそう思う」と回答した 256 名に対し、介護の仕事に就きたいと思う理由を尋ねた (複数回答)。「人や社会の役に立つ仕事だ」と思うから」が最も多く 169 名 (66.0%)、次いで「やりがいのある仕事だ」と思うから」146 名 (57.0%) となっており、これら 2 項目が他の項目より突出して高い割合を占めていた。



(10) 介護の仕事に就きたいと思わない理由 (図 9) (表 2)

上記 (8) の設問に「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と回答した 634 名に対し、介護の仕事に就きたいと思わない理由を尋ねた (複数回答)。「他に就きたい仕事があるから」が最も多く 328 名 (51.7%)、次いで「介護は自分に向かないと思うから」278 名 (43.8%)、「肉体的・精神的に大変そうだから」237 名 (37.5%) の順に多かった。



先に述べた「(8) 介護職への就労意向」において、介護の仕事に対して「少し関心がある」が、介護職に就きたいと思わない(「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と回答した 77 名の、介護の仕事に就きたいと思わない理由について、表 2 に示す。

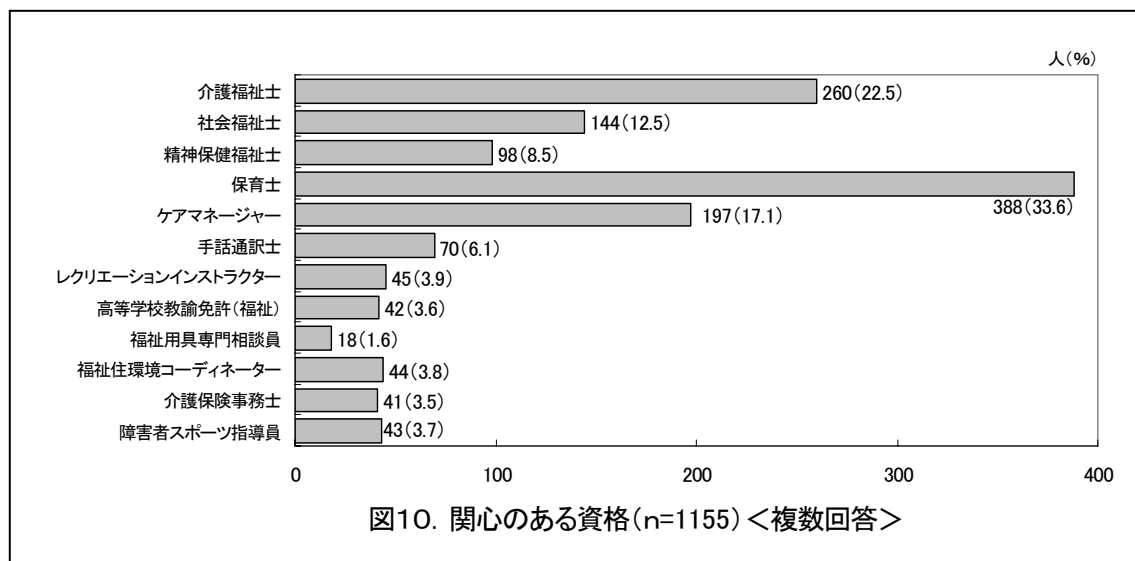
図 9 で示した全体の傾向と比べ、“介護に関心があるが介護の仕事に就きたいと思わない回答者”において高い割合を示している項目は、「他に尽きたい仕事がある」(※表内では「他職希望」と表記)、「給料などの労働条件や待遇が悪い」、「将来性がない」、「その他」であった。

＜表 2＞介護の仕事に就きたいと思わない理由

	他職 希望	向か ない	大変 そう	関心 ない	労働 条件	やり がい	不規則	将来 性	周囲 反対	その 他
少し関心あるが就 きたくない(n=77)	46 (59.7)	26 (33.8)	26 (33.8)	1 (1.3)	19 (24.7)	3 (3.9)	5 (6.5)	4 (5.2)	2 (2.6)	3 (3.9)
全体 (n=634)	328 (51.7)	278 (43.8)	237 (37.5)	174 (27.4)	123 (19.4)	78 (12.3)	64 (10.1)	25 (3.9)	20 (3.2)	13 (2.1)

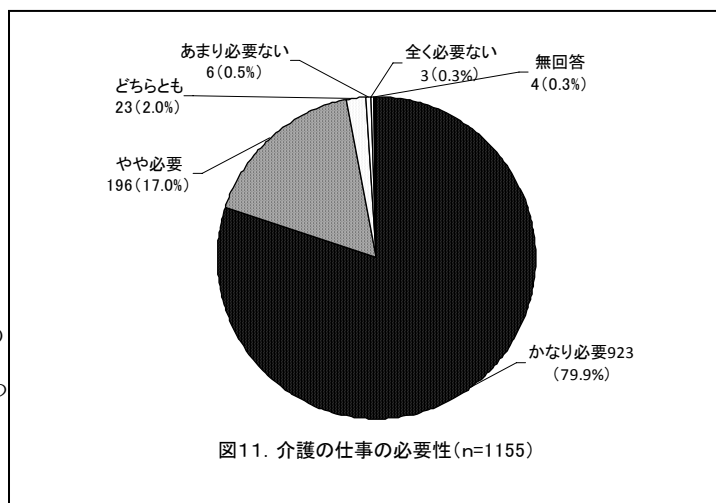
(11) 関心のある資格 (図 10)

福祉関係の資格等を選択肢として列挙し、その中から関心のあるものについて複数回答で回答を求めた。関心がある資格として最も多かったものは「保育士」388 名 (33.6%) であり、次いで「介護福祉士」260 名 (22.5%)、「ケアマネージャー」197 名 (17.1%)、「社会福祉士」144 名 (12.5%) の順に多かった。なお、選択肢の中に関心のある資格が「ない」と答えた回答者は 404 名 (35.0%) であった。



(12) 介護の仕事に対して抱く意識
(図 11)

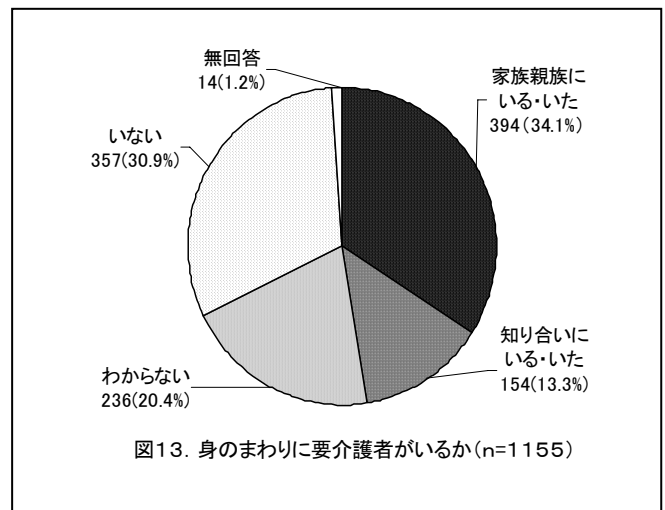
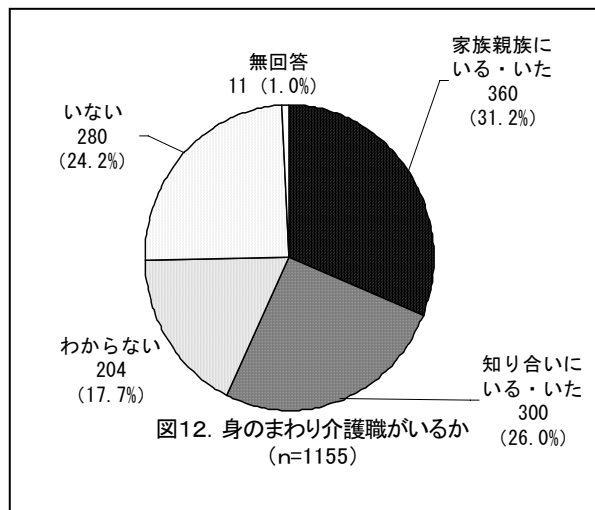
『介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思うか』という設問に対し、「かなり必要であると思う」923名(79.9%)、「やや必要であると思う」196名(17.0%)であり、ほとんどの回答者が介護の仕事は社会に必要であると答えている。



(13) 介護との接触状況 (図 12) (図 13) (表 3)

『身のまわりに介護の仕事に就いている(いた)人があるか』という設問に対し、「家族や親族にいる／いた」360名(31.2%)、「知り合いにいる／いた」300名(26.0%)、「いない」280名(24.2%)であり、身近に介護職がいる(いた)経験を持つ生徒が全体の半数以上を占めていた。

『身のまわりに介護を受けている(いた)人があるか』という設問に対し、「家族や親族にいる／いた」394名(34.1%)、「知り合いにいる／いた」154名(13.3%)、「いない」357名(30.9%)であり、身近に要介護者がいる(いた)経験を持つ生徒が全体の半数近くを占めていた。



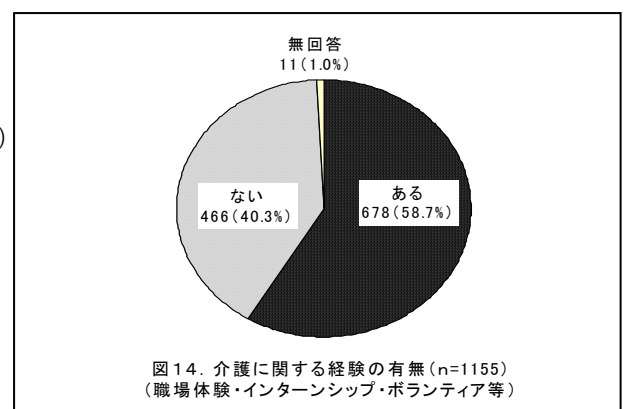
身のまわりに介護職や要介護者がいる（いた）回答者の介護職への就労意向について表3に示す。介護職や要介護者との接触の機会がある生徒の1割程度が介護職への就労を強く希望している。一方で、就労を希望しないとの回答は、いずれも5割程度に登っている。

<表3>身のまわりに介護職や要介護者がいる（いた）回答者の介護職への就労意向

介護との接触	就労意向	強くそう 思う	少しそ う思う	どちら とも	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	無 回 答	計
介護職がいる(いた)(n=660)		71 (10.8)	102 (15.5)	158 (23.9)	219 (33.2)	109 (16.5)	1 (0.2)	660 (100.0)
要介護者がいる(いた)(n=548)		56 (10.2)	84 (15.3)	129 (23.5)	175 (31.9)	104 (19.0)	0	548 (100.0)

(14) 介護に関する職場体験、インターンシップ、ボランティア等の経験の有無(図14)(表4)

「経験がある」678名(58.7%)、「経験がない」466名(40.3%)であった。介護に関する体験がある生徒が全体の半数以上を占めている。「経験がある」回答者の介護職への就労意向について表4に示す。

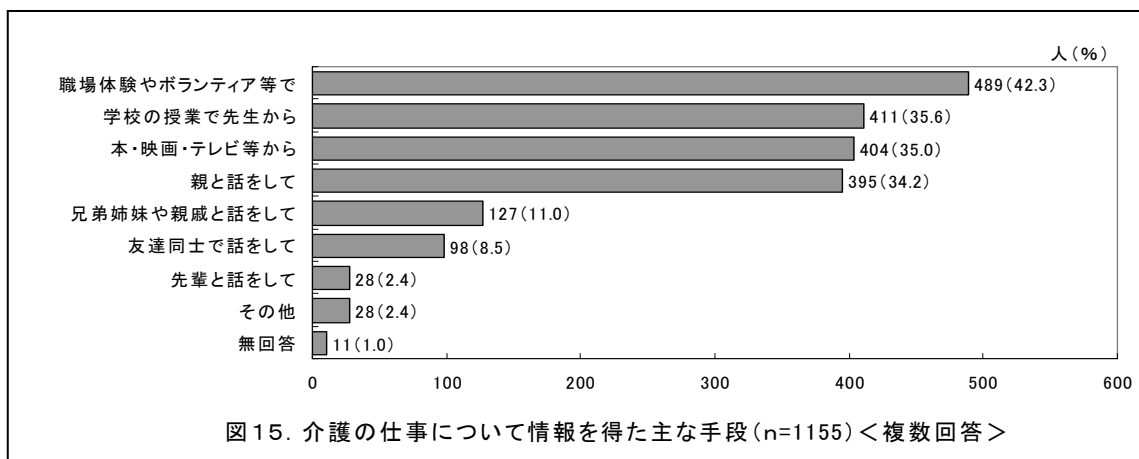


<表 4> 「職場体験」等の経験がある回答者の介護職への就労意向

就労意向	強くそう 思う	少しそ う思う	どちら とも	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	無 回 答	計
職場体験							
職場体験等の経験がある(n=678)	86 (12.7)	110 (16.2)	158 (23.3)	211 (31.1)	112 (16.5)	1 (0.1)	678 (100.0)

(15) 介護の仕事について情報を得た主な手段 (図 15)

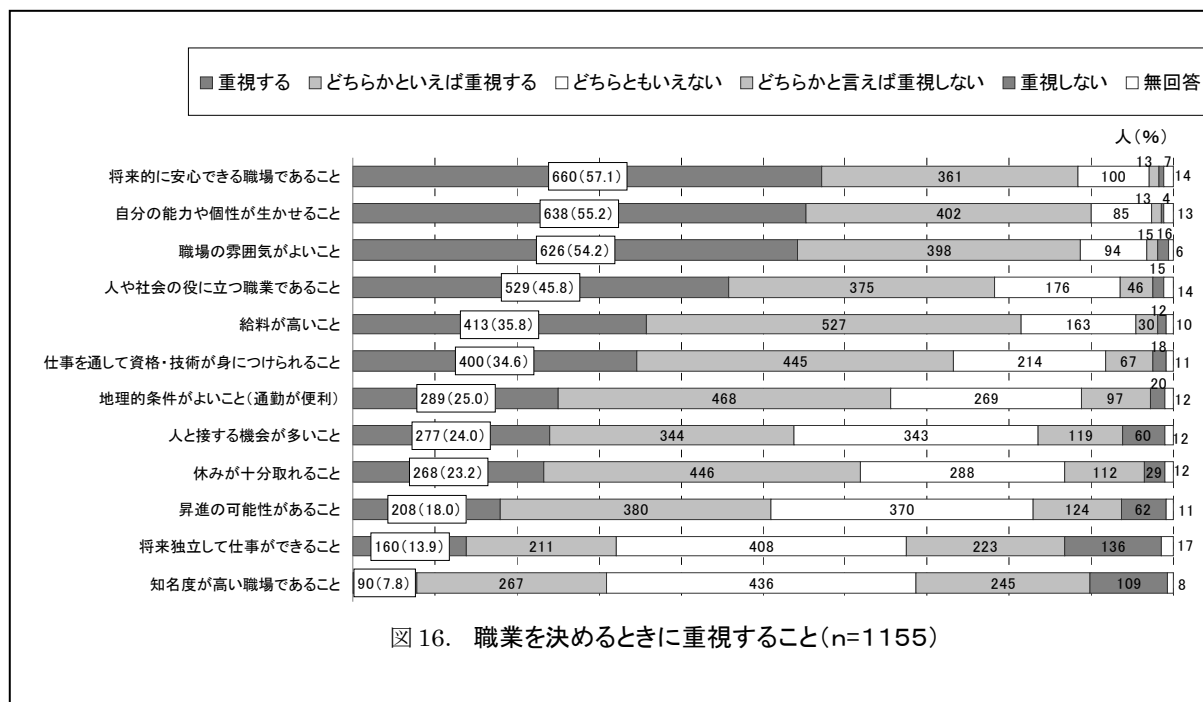
『介護の仕事を中心にどのようにして知ったか』という設問に対し、複数回答で回答を求めた。「職場体験やボランティア等で」が最も多く 489 名 (42.3%)、次いで、「学校の授業で先生から」411 名 (35.6%)、「本・映画・テレビ等から」404 名 (35.0%)、「親と話をして」395 名 (34.2%) の順に多かった。



(16) 職業を決めるときに重視すること (図 16)

図 16 に示した 12 項目をどの程度重視するかについて、5 段階で回答を求めた。『重視する』の割合が最も高かったものは「将来的に安心できる職場であること」660 名 (57.1%) であり、次いで「自分の能力や個性が生かせること」638 名 (55.2%)、「職場の雰囲気がよいこと」626 名 (54.2%)、「人や社会の役に立つ職業であること」529 名 (45.8%)、「給料が高いこと」413 名 (35.8%) の順で高かった。

一方、『重視しない』の割合が最も高かったものは「将来独立して仕事ができること」136 名 (11.8%) であり、次いで「知名度がある職場であること」109 名 (9.4%)、「昇進の可能性のあること」62 名 (5.4%)、「人と接する機会が多いこと」60 名 (5.2%)、「休みが十分取れること」29 名 (2.5%) の順で高かった。



5. まとめ

1) 秋田県における今後の介護人材確保の可能性について

今回の調査から得られた結果は以下の通りである。

- ・ 高校卒業後に秋田県内に滞在し、進学や就職を希望する生徒は全体の約半数であった。
- ・ 高校卒業後、福祉系大学等への進学を希望する生徒は全体の約 2 割であった。
- ・ 介護の仕事に関心がある生徒は全体の約 4 割であるが、介護職への就職を希望する生徒は全体の約 2 割にとどまった。

2) 若者の介護就労を促進するための課題について

介護職への就労を希望しない生徒は全体の 5 割以上を占めていた。介護の仕事に就きたいと思わない理由としては「他に就きたい仕事がある」「介護は自分には向かない」「肉体的・精神的に大変そう」「介護には関心がない」の割合が高かった。介護についてのマイナスイメージの払拭を図り、若者が介護に関心を持てるような働きかけが期待される。一方、介護に関心を持つ生徒の中でも介護職への就職を希望する生徒は約半数にとどまり、希望しない生徒も約 2 割いることがわかった。介護への関心を持ちながらも就職に向かうまでには至らない状況があることについて、今後さらに分析を進め、介護就労を促進していくための働きかけについて検討していく必要がある。

以上